

令和3年 第4回定例会 11月30日 一般質問(1/3) スーパーシティ部分
(文字起し+修正)

一般質問 松本)

大和平野中央スーパーシティ構想について先の11月5日に奈良県の主催で大和平野中央スーパーシティ構想コンソーシアムキックオフ会議が開催されました。

キックオフ会議では県の描く構想、目指すものが端的に示されキックオフにふさわしい内容であり良かったと思っております。

私なりにまとめますと県立大学の設置をスタートアップビレッジというものに結びつけるということ大和平野中央プロジェクトを国スーパーシティ構想と連携させた時とするということまたこれらに付随して県立大学の開設時期を2024年から2031年にするという事と思っております。ここで、スタートアップビレッジのスタートアップは起業を意味し起業を支援する街づくりをめざすということのようです。

町としては是非ともこの機会を利用して今ここに住む住民がここに住んでよかった、住み続けたいと思うまちづくりにつなげて行っていただきたいと思っております。

そういった観点から以下2点を聞かせてください。

1. この機会を活用することでの町長ご自身のまちづくりのビジョンをお聞かせください。県の目指すものと町の目指すものっていうのは別じゃいけないと思うけど町が目指すものは何かありますかという質問です。
2. 本件、国のスーパーシティ構想との連携に伴って大学の建設設置のみならずまちづくり、町行政、住民自治といったところまで県や企業が関係してくることになると思われま。そういった中でこの企画に対して三宅町の住民がどのように参画していくのか、行政として住民の参画への道をどのように作って行かれるのかをお聞かせください。

町長)

県が国に、スーパーシティ構想の第二次募集に提案しようとする大和平野中央スーパーシティ構想は本庁と県が連携して進める大和平野中央プロジェクトと関連する周辺エリアの施設整備運営を一体的に捉える未来都市の実現を目指すものですが、同構想の実施により若者の県外流出の抑制県内企業の人材確保県内の若者女性高齢者の再教育雇用の場の確保世界に通用する人材育成を図るとともに子どもから高齢者に至るまで健康で健全な生活の維持向上を図ることを目的としておりそれらは本町が掲げる三宅ビジョン実現のための取り組みとも合致するものでございます。

今後本町での具体的な取り組みの主要なテーマは既にご承知の通り県立大学工学系学部を核としたスタートアップビレッジでございます。

現在県において県立大学新キャンパス設置に関わる基本構想と計画が策定作業中であることや用地の買収に関わる測量がこれから進められるとのことで具体的な街づくりのビジョンをこの場でお示しすることは困難でございますがまずはまちづくりの土台となる用地買収を早急に進めることが本町としての最重要事項であると認識しておりますしかしながら現時点から少しずつスタートアップビレッジによるまちづくりの土壌を整えていく必要もあるものと認識しているところであり本町と県との協働によりこの構想具体化を進めるにあたっては一般的な企業誘致による大規模開発が伴うようなものではなく古来先人より守り継承されてきた今ある原風景や慣習を残しつつ

そこに最新のテクノロジーを融合させることで生活の利便性を飛躍的に向上させるとともに全国で2番目に小さい町である本町の特性を活かし様々な分野におけるユニークな人材を集積させることにより新たな交流人口を創出し町全体の活性化しいては三宅ビジョンの実現や過疎脱却に繋がるよう全町総力を挙げて取り組んで参りたいと考えております。
なお、地域の皆様方とは今までにもまちづくりトークやタウンミーティング等を通じて本プロジェクトへのご意見等を頂戴し県へもそれらをお伝えしているところですが今後も都度意見交換の場を設けてまいりたいと考えております。

再質問 松本)

質問したかったのは、この県の計画、学校の中身、どういう学校にしたい、学校をその後そのまま地元に残って起業していくような人を育成するようなそういう学校にしたい、例として、スタンフォード大学の名前も出ていましたが、県として捉えるのはもちろんその通りだし賛同しますしやっていただければいいと思うんですけど、その機会を町として、それを利用して、その周りのまちづくりに何か活かすことはできないのか、と何かこれを機に、町はそう言いながらもこういうところをこういう風に持って行きたいね、みたいな何かが出てくればいいかなという風な思いで質問させていただきました。

その回答としましてはもちろんスタートアップビレッジを実現させるというのが第一だっというのとそれを通して、全国で2番目に小さい町である本町の特徴特性を活かしてユニークな人材を集積させることで、ひいては三宅町ビジョンの実現や過疎脱却に繋がるような形にしたいという風におっしゃってくれましたけども、それに対する具体的な施策みたいなものがあればなという風に思いました。例えばですね、先の方の質問にもありますけども、この機会を利用して学生たちの住まいを確保する方向に行くだとか、この機会を利用して交通インフラを整えて小さな街をより利便性を図るようにするとか、何かそういういろんな狙いを町で作らない限りは県は出してくれないと思うんですよね。

そういう意味で、県としては工学系の企業拠点にしたいと。

それは実現すれば町もプラスになるだろうし最も良いと思うけども、町としてはこの機会を利用して持続可能な、この小さな町の何かを実現するといったようなものを今から固めていく必要があるんじゃないのかなと。

あんまり出すと県に怒られるかもしれないけど、また、こんなところで喋れない話かもしれないけども、なんかそういう一本筋を作られたらどうかなって思うんですけどもそういうことについていかがでしょうか。

町長)

さきほどからもお答えさせていただいていますように、町としてやっていかなければならないことは、第二期の地方創成総合戦略というところをしっかりとやっていく、またビジョンミッションバリューというところをしっかりと体現していくことが今後の三宅町の未来に繋がっていくというふうと考えております。

松本)

ありがとうございます。

では、スーパーシティに関する2件目の質問です。これって県立大学の中身だけの話じゃなくって大学作った後近くで起業してもらおうとか、周りの人にも関心を持ってもらって周辺のまちづくりに三宅町の住民がどういう風に賛同して、住民の理解というものもすごく必要だし、まちづくりに関わるようなスタートアップビレッジを作るという事自体が、大学だけじゃでなくて周りを巻き込むような話だと思っています。

さらにスーパーシティっていう話になると、特区の認定であつたりその中で住む人のいろんなことに関わってくるような話になるから、どうしてもその住民参画が大事な所なんじゃないかなと思うんですけども住民参画の仕組みとして質問させていただきました。

それについては今すでにあるまちづくりトークであつたり、タウンミーティングないしはそれに類するものを適時やっていきたいというふうに回答をいただいております。

例えば、じゃあスタートアップビレッジの準備委員会といったような、住民中心で検討委員会みたいなものを作るなど、それは町が引っ張って作らせるもんじゃないとも思いますけど、まあ、住民自らそういう風な形で、「どうせ大学ができるんやったらこの周辺の町をこういう風にしたいね」というような、そういう議論が住民の間で沸いてくるような、そういう仕組み作り、住民の背中を押すような事を何かできないのかなっていう風な思いで質問させていただきました。

もし何かあれば一言お願いします。

町長)

また、ご意見として承って今後の検討材料の一つとさせていただきたいと思います。

松本)

ありがとうございます。

この先の質問にも繋がるんですけどもやっぱり住民参画の仕組みづくり、参画を後ろから押していただけるような方策を色々考えていただければなと思っております。

==関連して==

MiiMo のグランドオープンのセレモニーに住民の声がどれくらい反映されているか、といった質問のやりとりの後。。

ちょっとコメントをさしてあげますけどもやっぱり何年か続けて文化祭が無くて、今回を心待ちにしていた人が結構いるし、マイクで歌を歌うのを楽しみにしていた方やバザーに出してものを売るとか、もち作って売る人、その餅を買うのを楽しみにしている人、とか結構色々おられたかなと思うんです。

そういう風な声がどれくらい聞こえていて、そういう声を汲み取りつつ、やってゆくということは、このグランドオープンだけじゃなくってこれ以外の、今度の県立大学の話なんかでも出てくると思うんでそこを上にも順番につなげて行っていただけたらなと思います。

==個別施設計画、町営住宅に関する質問に関連して==

- ・公共施設を維持管理する計画で、老人いこいの家は除却。
 - ・防災拠点としての、地区公民館の必要性について。必要性は認めるがお金がない。
 - ・大学が出来るのに合わせて、町営で大学生も住める住居を作る余地は？ 無い。
- などより。

松本)

町営住宅に関しても、もしかしたらスーパーシティ構想なんかがうまくいっちゃって、いろんな予算いろんな構想を考えられる可能性があると言った時に、もともと町がかかえている問題をそれで解決するといった複合的な行政、こそ、トップのリーダーシップだと思います。

先の質問の町営住宅や災害施設など対して、お金がないからやれないではなく、スーパーシティ構想であつたり過疎債が続くようになったことを通してそういうものを総合的に実行する。

今度、防災計画を考える際に、また、個別施設計画を考える際にも、スーパーシティもちょっと視野に入れて何か考えたらどう、っていうような指示を出すなど、そういう総合的なことをやるのはトップでしかないと思うんですけど、そういう動きを期待したいと思いますがいかがでしょうか。

町長)

この際、合わせて何かをするというより、なぜするか、何のためにやっていくかっていうことが非常に大事になってくるのかなというふうに考えています。

今後はどの事業においても何の目的で何を解決するためにこの事業をやるのかと事業目的、理念のところ(が大切)。今回、ビジョンミッションバリューが出来ましたのでその部分をしっかりと大切にしながらそれに即した形でまちづくりが行われているのかこの施策は本当に必要なのかというところをしっかりと考えてそこに様々な手法という部分が次につながっていくのかなと思います。そもそもあのスーパーシティ構想ありきで考えるのではなくてやはり何のためにこの事業は必要なのかという風にしていくのかという謎をしっかりと考えていくということを重点においてその中で手法として連携が必要と言うのであれば連携も視野に入れるそして単独も含めてやらないといけないところにはしっかりと予算を配分していくことをしていきたいというふうに考えております。

松本)

ありがとうございます。

それとはちょっと反対から見たような考えになっちゃうかもしれないですけども、個別最適が全体最適にならない例として、例えば今回の個別施設計画に関しては「その施設の維持費がかかるのを削減しなくちゃいけないからここは更新しません」っていうのが出てきたとします。

また、災害の施設なんかにしても「必要なのは分かるのだけどお金がないから建てられないのです」というのが出てくる。

スーパーシティとか過疎債の活用とかって言った時に、そのお金はあるかもしれないけどなんかちょっと目的が違うから使えない。そういうのは、たぶん部分的に考えた時には全部正しい答えなのだろうと思うんですけども、全部をごっそり合わせた時に果たしてそのもうちょっと良い解がないのかなっていう風な観点で考える。本当に何が必要かっていうのはそこから出てくるのではないのかなっていう風に私は思いますが、ご参考にして頂ければという程度で終わらせていただきます。